1 株主資本等変動計算書

学習のポイント

①株主資本等変動計算書は、純資産の部の各項目の増減と残高を明示する計算書類である。
②株主資本等変動計算書は、剰余金の配当や株主資本の各項目間の変動を明確にするため、利益処分案（または損失処理案）に代えて設けられた計算書類である。

●株主資本等変動計算書の意義

株主資本等変動計算書は、貸借対照表の純資産の部の１会計期間における変動額、特に株主に帰属する部分である株主資本の各項目の変動事由を報告するために作成されます。

会社の取引には、剰余金の配当、資本金の減少による資本剰余金の増加、準備金の減少による剰余金の増加など、損益取引に該当しない取引が数多くあります。

旧商法では、これらの取引のうち、ある部分は損益計算書の末尾に、ある部分は利益処分案や損失処理案に記載されていたため、株主資本の計数について前期末残高と当期末残高の連続性を把握することが困難となっていました。

また、会社法では、剰余金の配当や株主資本の計数変動などが期中のいつでも認められるようになったため、ますます複雑になることから、株主資本等の増減を示す独立した書類を作成することが適当であると考えられました。その結果、従来の利益処分案（または損失処理案）に代えて、独立した計算書類として株主資本等変動計算書が作成されることになりました。

●他の計算書類との関係

株主資本等変動計算書の作成が義務づけられたことに伴い、損益計算

書の表示が簡素化されました。

従来は、損益計算書の末尾において、当期純利益（または当期純損失）に前期繰越利益（または前期繰越損失）等を加減して当期未処分利益（または当期未処理損失）を計算してきました。しかし、これらは株主資本等変動計算書において表示されることから、損益計算書の末尾は当期純利益（または当期純損失）となり、損益計算書の本来の目的である、損益取引のみを反映する計算書となりました。

また、株主資本等変動計算書に表示される各項目の前期末残高および当期末残高は、前期および当期の貸借対照表の純資産の部における各項目の期末残高と一致します。

前期の貸借対照表と一致

株主資本等変動計算書

（平成X1年４月１日から平成X2年３月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本							評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	20,168	22,956	1,294	39,502	40,796	△ 5,038	78,882	3,144	82,026
当期変動額									
剰余金の配当				△ 1,373	△ 1,373		△ 1,373		△ 1,373
当期純利益				2,039	2,039		2,039		2,039
自己株式の取得						△ 11	△ 11		△ 11
株式資本以外の項目の当期変動額（純額）								△ 53	△ 53
当期変動額合計				666	666	△ 11	655	△ 53	602
当期末残高	20,168	22,956	1,294	40,168	41,462	△ 5,049	79,537	3,091	82,628

損益計算書と一致

当期の貸借対照表と一致

学習のまとめ

株主資本等変動計算書は、複雑な純資産の部の変動を一覧表示するとともに、貸借対照表と損益計算書とをつなげる書類である。